

令和2年12月1日

富良野市議会議長 黒岩岳雄 様

富良野市議会議員 後藤英知夫
外6名

議員の派遣に関する報告書

このたび議員派遣の承認を受け、その結果を下記のとおり報告します。

記

- 1 富良野沿線議長会議員研修会
 - (1) 目的 議会活性化及び議員の資質向上に資するため
 - (2) 派遣場所 上富良野町
 - (3) 期間 令和2年10月19日
 - (4) 派遣議員 富良野市議会議員15名
 - (5) 派遣内容 別紙1のとおり

- 2 2040未来ビジョン出前セミナー
 - (1) 目的 議会活性化及び議員の資質向上に資するため
 - (2) 派遣場所 富良野市内
 - (3) 期間 令和2年11月19日
 - (4) 派遣議員 富良野市議会議員15名
 - (5) 派遣内容 別紙2のとおり

別紙 1

1. 派遣内容

富良野沿線議長会議員研修会

講演・演題 質問力を高める 議会力にいかす

・講師 龍谷大学政策学部

教授 土山 希実枝 氏

2. 所感

議員は地域住民の付託に応えるべく、住民にとって必要不可欠な政策や制度を決定する重要な責務を有しており、わがまちの政策課題を訴える争点提起の場として、議会において一般質問が認められている。議員必携（全国町村議会議長会編集）によれば、「政策に生きるべき議員にとって、一般質問は、最もはなやかで意義のある場」と定義されているところである。

二元代表制にあっては、住民を代表する議会と首長が、相互に抑制と均衡を保ちながら、議会は自治体運営の基本的な方針を決定し、行政による執行を監視するとともに、積極的な政策提案を通して政策や制度を決定していくことが求められ、個々の議員は総合的な政策形成力で、政治家としての活動と知見を集約し、一般質問に臨まなければならない。また、一般質問を議員個々の取り組みだけにせず、より良い自治体政策を作り上げていくために、議会総体として効果的に機能させることも重要である。こうした取り組みとして、質問議員以外の議員に関連質問を認めている事例や、常任委員会総意として一般質問に取り組んでいる事例、さらには全議員で「一般質問検討会」を開催し、質問内容をブラッシュアップさせている事例などが紹介され、大変参考となった。

さらに、住民の議会への関心を惹起する方策として、今年 10 月に早稲田大学マニフェスト研究所のマニフェスト大賞「優秀コミュニケーション戦略賞」を受賞した鷹栖町議会の週刊誌の中吊り広告風に作った広報や、傍聴者が議員を採点する通信簿などの取り組みを拝聴し、本市議会においても、議員個々の資質を高めながら、市議会総体の議会力の向上に努めていかなければならないと感じたところである。

別紙 2

1. 派遣内容

2040 未来ビジョン出前セミナー

講演・演題 人口減少時代のまちづくりと地域社会の活性化

・講師 東京都立大学人文社会学部

教授 山下 祐介 氏

2. 所 感

わが国が抱える課題の一つに 2040 年問題が挙げられる。今後、毎年 90 万人の人口が減少し、かつ生産年齢人口の減少と高齢化率がピークを迎える。国立社会保障・人口問題研究所の平成 29 年推計によれば、2040 年の人口を 1 億 1 千万人と見込んでいる。

平成 26 年 5 月に日本創生会議は、地方消滅論で「2040 年までに全国の市町村の半数が消滅する可能性がある」ことを公表し、人口減少に悩む多くの自治体を震撼させた。政府は同年 9 月に地方創生(まち・ひと・しごと創生)本部を立ち上げ、12 月に長期ビジョン、総合戦略の策定を指示し、各自治体でさまざまな対策が講じられている。しかしながら、依然として人口は減少しており、とりわけ都市部の出生率は低い水準で推移している。このことは選択と集中によってもたらされた東京一極集中による弊害だと多くが報じている。

言うまでもなく地方でも都市化は進んでいる。しかし、都市部のように行政サービスやお金を払って市場利用する問題解決方式ではなく、村落型の家族や共同体による問題解決方式によりコミュニティは存続し、高齢化が進みいずれ消滅に至るとされる限界集落であっても、実際に消滅した地域はごくわずかである。従って、今後の人口政策にあっては、人づくり・地域づくりに原点回帰し、多様性の共有の社会を取り戻す「価値の転換」や、空間的な偏りを再生する「人口配置の適正化」、そして人づくりの原点である「教育現場における教職員の処遇改善」など、議会の政策形成能力をもって取り組んでいくことが必要である。

「まちづくりは人づくり」という講師の言葉を念頭に置き、我々議員は人口減少問題をはじめとするさまざまな地域課題について、市民の声を汲み上げながら冷静に状況分析し、市議会全体でしっかりと政策形成に取り組んでいかなければならないことを改めて認識する機会となった。